

高学年向き お勧めリスト

2009.0610更新

本の題名	作者名	出版社名	コメント
ぼくを探しに	シェル・シルヴァスタイン作 倉橋由美子訳	講談社	大人も心に響く、深い話です。
まんじゅうこわい(落語絵本)	川端 誠	クレヨンハウス	江戸ことばが難しいですが、楽しいですよ。低学年でもOK
じゅげむ(落語絵本)	川端 誠	クレヨンハウス	
かようびのよる	デヴィット・ウィズナー作	福武書店	
くわずにようぼう	稲田和子 再話 赤羽末吉 画	福音館書店	
しろいうさぎとくろいうさぎ	ガス・ウィリアムズ 文・絵 まつおかきょうこ 訳	福音館書店	くろいうさぎとしろいうさぎが結婚することになりました——心安らぐお話です。
スーホの白い馬	大塚勇三 再話 赤羽末吉 画	福音館書店	

鶴川第三小学校 読み聞かせの会

つるによぼう	稲田和子 再話 赤羽末吉 画	福音館書店		
長くつ下のピッピ	リンドグレーン 作 大塚雄三 訳	岩波書店		
やかまし村の子どもたち	リンドグレーン 作 大塚雄三 訳	岩波書店		
すばらしいとき	ロバート・マックロス キー文・絵 わたなべしげお 訳	福音館書店		
魔法のアイロン	ジョン・エイキン 作 猪熊葉子 訳	岩波書店		
百万回生きたねこ	佐野洋子	講談社		大人のための絵本かもしれませんが、子どもでもきくと感じることはあるはず。
絵本 千の風になって	新井満 著 佐竹美保 絵	理論社		読み聞かせには少々長い(20分くらい)。それでも子どもたちは真剣に聞いてくれました。
ハルばあちゃんの手	山中恒 作 木下晋 絵	福音館書店		鶴川にお住まいの木下晋さんの力作。鉛筆で描いた絵が大変素晴らしい。もちろんお話もとてもいいです。鶴川第三小学校で原画展を行いました(2006年度)
よもぎだんご	さとうわきこ 作	福音館書店		

鶴川第三小学校 読み聞かせの会

かしこいさかなはかながえた	クリス・ウォーメル 作	徳間書店		陸に初めて上がろうとした勇氣ある魚の話。
きになるともだち	内田 麟太郎 作 降矢 なな 絵	偕成社		どっかんどっかん笑えるわけではないけれど、くすくす笑える楽しい絵本です。オオカミさんの初恋にみんな楽しんで聞いてくれていました。
まさ夢いちじく	C.Vオールズバーグ作 村上 春樹 訳	河出書房新社		とても静かに聞いてくれました。内容も面白く、絵もきれいでおすすめです！
紙しばい屋さん	アレン・セイ 作	ほるぷ出版		絵が大変美しく、話の内容も現在と過去がリンクしていて面白いです。
いぬのマーサがしゃべったら	スーザン・メドー 作 ひがし はるみ 訳	フレーベル館		犬がマカロニスープを食べたらしゃべれるようになった！というドタバタの楽しいお話です。主人公のマーサが巻き起こすハプニングの連続にみんな大笑い。でもしゅんとなるシーンでは聞き入ってくれました。子ども達も楽しんでくれたのが伝わってきて私も楽しかったです。
トリッポンのこねこ	萩尾 望都 作 こみね ゆう 絵	教育画劇		不思議なお話だけど、猫が家出する理由に少し考えさせられるものがあります。
ふるやのもり	瀬田 貞二 再話 田島 征三 画	福音館書店		最後まで“ふるやのもり”の正体が何だったのが教えないラストに「？」という子と「ああっつ」という子に反応が分かります。が、それがこの本のねらいなので、今回もしめしめと素直な反応が！
校長先生のあたま	長 新太 作	くもん出版		長新太ワールド極まれりという内容の本です。5年生にも十分楽しんで聞くことができるんだと改めて長新太のすごさを感じました。
ピロードのうさぎ	マージェリ・W・ピアンコ 作 酒井 駒子 訳・絵	ブロンズ新社		子どもが大事にしていたおもちゃが最後に子ども部屋のようせいに本物にしてもらえる、心温まる話でした。

鶴川第三小学校 読み聞かせの会

「みつばち」からダルマ	丘 修三 作 片岡 まみこ 画	くもん出版	読み物なので、集中できるかと思いましたが、最後まで聞いていました。5年生の2学期から3学期、終業式の話なので、時期的には良いと思いました。目がだんだん見えなくなる友達、少しずつ人の気持ちを考えることの大切さを感じる自分。奥の深い話でした。
ラヴ・ユー・フォーエバー	ロバート・マンチ 作 乃木 りか 訳 梅田 俊作 絵	岩崎書店	 <p>息子が生まれて成長して悪くなくてもいつでも愛しているよ、のメッセージが盛りだくさん。読むたびに涙が出てしまう名作です。</p>
ハリネズミと金貨	V.オルロフ 原作 田中 潔文 V.オリシヴァング 絵	偕成社k	 <p>ハリネズミの老人が拾った金貨で冬ごもりの支度をしようとするが、森のみんなに親切にされ、結局金貨を使わずに森に戻すという、ロシアのお話。</p>
鬼の目力	畑中 弘子 作 辻 恵子 絵	てらいんく	人間を食ってやろう！という鬼の思いは人間に育てられ、愛されたことで薄れてきて…。とても暖かなお話です。
ばけものつかい	川端 誠 落語絵本	クレヨンハウス	 <p>お化け屋敷に引っ越して、使用人に辞められてしまったご隠居さんが夜な夜な出てくるお化けを働かせ、とうとうお化けも音をあげ…。</p>
ももの里	毛利 まさみち 作 絵	汐文社	 <p>最後に「あっ桃太郎だ！！」という声が出て、とても満足してくれました。お話は桃太郎の桃はどこから…という疑問を解決してくれるようなお話です。</p>
2ひきのいけないアリ	クリス・ヴァン=オールズバーグ 作 村上 春樹 訳	あすなる書房	 <p>村上春樹の訳文はなかなか詩的で難解なところもありましたが、内容は理解できていました。流石、オールズバーグだなという絵です。</p>
おりこうねこ	ピーター・コリントン作 絵	徳間書店	 <p>エサをもらえないネコがキャッシュカードを持って生活するお話。ユーモアいっぱい8分間で軽く読める本です。</p>
あほろくの川だいち	岸 武雄 作 梶山 俊夫 絵	ポプラ社	長いので一気に読みましたが、もっとゆっくり味わい深く読めばとても良いものになっただろうなあ～と反省。でも時間がないので…残念です。

